

令和 2 年度 学校総合評価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状を踏まえ、3項目を重点課題として取り組んだ。取り組み当初に設定した数値目標については、どの項目もほぼ達成することができた。各重点課題の評価は次の通りである。

(1) カリキュラム・マネジメントを踏まえた年間指導計画の作成

今年度より新学習指導要領が小学部から順次実施されていくにあたり、現行の年間指導計画を単元の目標や評価の観点をより明確にし、また、日々の授業に還元できるように見直しを図った。全教員が学部縦割りで、教科ごとに学部間の系統性や教育課程との整合性を考慮しながら4回の検討会を経て新年間指導計画の作成を行った。作成後の教員へのアンケートでは、小学部から高等部までの学習活動の系統性が明確になったという意見が多く挙げられた。「学びの過程への見通しがもてる」の評価80%を目指したが、約67%であった。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

これまで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を繰り返し行い「どのように学ぶ」かについては一定の成果をあげてきた。より、授業改善の習慣化を進めるために、授業者と参観者が改善の観点を明確化し、共有するためのツールとして「授業改善シート」を作成・活用した。単元の節目で確認・検討を行うことと、評価を数値化することでPDCAサイクルによる授業改善に結びついた。全教員が1単元以上の授業改善に取り組み、授業参観者から「授業改善は妥当」の評価を受けた単元は83%であった。

(3) ICT機器を活用した支援の充実

日常的に授業場面やコミュニケーションツールとしてICT機器を使用しているが、児童生徒の実態を踏まえると、さらに多くの教員が様々な知識と技能を習得し積極的に使用することが必要であると思われる。外部講師によるICT機器の使用についての研修会とタブレット端末の使い方講習会は各3回、訪問教育との遠隔授業は7回、他にオンライン授業や研修会を複数回実施し目標を十分達成した。現在の社会状況下、オンラインによる学習活動は必須であり、今回の取組は通常の学校生活や学習活動に大いに汎化できた。

2 次年度へ向けての課題と方策

今年度の重点課題の設定目標は概ね達成することができたが、今後も継続して取り組み、定着や発展を図る必要がある。次年度に向けた方策等については、以下の通りである。

- (1) 授業実践とその評価を行いながら、学習活動の系統性や学部間の関連を踏まえ年間指導計画の見直しを図っていく必要がある。
- (2) 年間指導計画との関連を明確にし、授業改善シート等の手立ての充実と継続した活用を行いながら、繰り返し授業改善を図っていく必要がある。
- (3) 今後も継続してICT機器の校内環境を整備するとともに、日常的な使用ができるよう教職員は研修を積み、日々の学習活動に生かしていく必要がある。